

2 3 3

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第18回です。

彼らとは5期生の卒業生たちでした。

5期生たちは受験が直前に迫った1月末、満を持してやって来ました。

この来訪は本当に大きなものでした。以前も記した場面ですが、以下にその場面を改めて記します。

1月27日、TOP5期生のうちの5人が、受験を5日後に控える6期生の激励に来てくれました。その日に彼らが来ることは聞いていたのですが、目の前の6年生に全ての意識が向いていて、私はその日が来訪当日であることを忘れていました。5期生たちが来た時間、帰る用意をしていながらも小6はまだ誰も帰っておらず、全員が揃っている状態でした。今思うと、それは僥倖とも言っている状況でした。

率直に言うと、今は卒業生に時間を割いている余裕はなく、1分でも早く帰して解き直しをやらせたい気持ちでした。それでも1年分成長した5期生は今がどんな時か、誰より分かっていました。ろくに打ち合わせ

もしないまま、「夢が叶うまであと5日。」と書かれた黒板の前に並ぶと、驚きの激励会が始まりました。

最初は1年ぶりに訪れる TOP に、照れくささと緊張を覚えたのか、少しもじもじさえていた彼らが、まるでカチリと音が聞こえるくらいに豹変し、異口同音に1点の重みを語り始めたのです。

「僕は2月1日に出したつもりが出し切れなかった。不安や迷いが答案に出てしまった。みんなには当日だけじゃ足りないって思っしてほしい。ちゃんと準備してその日に臨んでほしい。」(Uくん)

「僕は1月にたくさん悔しい想いをしたけど、2月に答案がどんどん良くなってきました。そして最後、自信を持って答案を作ることができて、合格することができました。みんなもそれを信じて今を過ごして下さい。」(Sくん)

「僕は初戦こそ落としたものの、その後1月受けた学校で全て合格が取れた。それでも、ちょうどこの時期にやり切らない自分がいて、最後に

涙をのんだ。やらなかったら、尽くさなければそれは必ず答案に出るんですよ。だからみんなにはやり切ってほしい。」(TY くん)

4人目のTR くんは、5期生キャプテンでした。最後の最後に本郷中の合格を勝ち獲った、キャプテンらしい重い言葉でした。

「みんなにはもう5日しかないんじゃない。まだ5日もあるんですよ。そして自分は舞台の大きさに舞い上がってしまったけど、みんなにはそうなってほしくないんですね。1点は本当に重いです。そこに人生を懸けて下さい。」(TR くん)

(第19回につづく)

2021年6月5日

大井 雄之